

令和5年度 長野市農業振興審議会 議事録（概要）

開催日時 令和5年7月18日（火）午前10時から午前11時30分まで

開催場所 長野市役所第二庁舎10階 会議室203

出席者 委員12名、傍聴2名、事務局（市職員）16名

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 新任委員及び事務局の自己紹介
- 4 議事
 - (1) 長野市農業振興アクションプランの実施状況について
 - (2) 長野農業振興地域整備計画総合見直しのスケジュール変更等について
- 5 報告
 - (1) 地域計画の進捗状況について
 - (2) 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の随時見直しについて
 - (3) その他
- 6 閉会

議事（概要）

議題(1) 長野市農業振興アクションプランの実施状況について

資料1-1、1-2に基づき事務局から説明

質議

（委員）

計画期間が令和4年度から8年度までの5年間とのことだが、4つの指標のうち指標1、2、3が令和5年度に目標値達成と思われるが、令和6年度以降目標値はどうなるのか。

（事務局）

目標値達成で終了というわけではなく、全体の計画のバランスを見て指標を上げることも考える。目標値をより超えるように5年間進めていく。

（委員）

農家にとって所得が重要である。指標1、2、3と指標4の市農業生産額の累積との相関はどのように考えているか。

（事務局）

施策実施のため、小項目として40の具体的な取組みを実施し、直接的または間接的に繋がり積み重ねていくことで市農業生産額の増加、それに伴う農家の所得増に繋げたい。

(委員)

指標3の果樹の新品種・新技術導入による栽培面積に関連して川中島地区では令和元年東日本台風被害以降、桃のせん孔細菌病により、今一番収益が上がるぶどうへの作付転換が増加している。これからは温暖化等の影響もあると思うが、新技術及び新品種の導入など、どのように考えているか。

(事務局)

今後も被害状況を詳細に把握し、新品種や長野市の気候に適した作物を他機関と協力しながら調査していきたい。川中島白桃は長野市が発祥の地になる。現在も色々な技術を導入し、スマート農業では桃の生育状況撮影及び観測データの分析を開始している。今後も、しっかり農家の方の困りごとに寄り添いながら、被害を抑えるよう新技術及び新品種の導入など提案していきたい。

(委員)

指標4の市農業生産額の累積について、目標達成率19%はどのように考えているか。

(事務局)

目標値1,020億円は令和4年度から8年度までの5年間累積になる。第二期アクションプラン1年目の令和4年度の達成率は19%達成ということで、概ね順調と捉えている。

(委員)

農家の現状は高齢化している。高齢になっても出来る農業など、農業振興審議会において、農業の10年後を今から考えていくべきだと思うが、どのように考えているか。

(事務局)

特に農業の人材不足は、他産業の人材不足とは違うと感じている。農業は栽培のノウハウなど早めに知識を得ながら、圃場の確保をしていかなければならない。今後の地域計画や長野市として環境づくりをして移住や定住を進めるなかで、新たな人材を積極的に呼び込む施策と合わせて新規の就農者を確保していきたい。

(委員)

ぶどう農家として、シャインマスカットを中心に栽培しているが、去年あたりから全国的に黒とう病が発生している。新品種クイーンルージュも雨に弱いということで、設備投資が必要な状況である。また、異常気象等により毎年状況が変わってきている中で、今後の農業のあるべき姿をどのように考えているか。さらに、シャインマスカットの栽培面積が増え価格が下落してきている。そのあたり含め、どのように考えているか。

(事務局)

関係機関と連携及び情報を共有し、フィードバック出来る情報があればするなど、柔軟に対応していきたい。

(委員)

ここ数年、凍霜害が深刻であり、現場の指導力を上げる必要に迫られている。今以上に情報収集やJ Aと協力を密にしなければならない。

また、行政も現場の指導力を上げるために、指導体制に対する支援が必要と思われる。今後、検討をお願いしたい。

(事務局)

広範囲にわたる指導で指導員の手が足りないなどあるが、J Aと検討していきたい。

(委員)

凍霜害について、防霜ファンの設置が進み、農作物の収穫量が減ならないよう行政としてさらに支援すべき思うが、今後、どのように考えているか。

(事務局)

J Aと協力し進めていく。地球温暖化が進む中でりんごなど果樹の種類が変化してくることも視野に入れながら、県の関係機関と連携して農業振興につとめていきたい。

(委員)

収入を保障する農業経営収入保険も普及が進むよう説明会の開催等の検討をお願いしたい。

(事務局)

NOSAI 長野と連携し、多くの地区で説明会等を開催しながら進めていきたい。農業経営収入保険は青色申告が条件となってくるが、簡易的な申告方法もあるという事を含め、周知していきたい。

(委員)

行政として年々増えている遊休農地や耕作放棄地をどのように考えているか。

(事務局)

人と人をマッチングさせる新規事業を考えている。農業したい人と農業して欲しい人をネット上で繋げたい。M&A (企業の合併・買収) の小規模版の仕組みを考えている。課題を共有しながら一歩踏み出すことを新規で検討している。

議題(2) 長野農業振興地域整備計画総合見直しのスケジュール変更等について

資料2-1、2-2に基づき事務局から説明

質疑

(委員)

今年度(令和5年度)に内容の審査及びパブリックコメントを実施し、来年度(令和6年度)答申という当初スケジュールが資料2-1のとおり変更になり遅れるということか。

(事務局)

長野県との協議が長期になる見込みとなり、遅れている。

報告(概要)

報告(1) 地域計画の進捗状況について

資料3に基づき事務局から説明

質疑

(委員)

地区計画策定に向けた地区での話し合いはどのような組織が中心になって進めていくのか。

(事務局)

各地域の農業委員と個別に相談しながら、地域の実情に応じて、参加者を決めていきたい。

報告(2) 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想の随時見直しについて

資料4-1、4-2に基づき事務局から説明

意見なし

報告(3) その他

質疑

(委員)

不動産売買において、家屋に田畑が付随した場合、特に農業をする意思がない人が不動産売買における買い手で、家屋に田畑が付随した場合、どのように対応しているか。

(事務局)

このような場合、具体的及び個別的な判断が必要になるため農業委員会に相談してほしい。また、農業委員会では農地法に基づき、不動産売買後の田畑がきちんと耕作されているか、厳しくチェックしている。